

財務委員会

副委員長 L 小高寛三

会則によりまず、「予算編成にあつてはクラブ運営並びに各運営委員会、各事業委員会が円滑かつ効率的に行われるよう配慮すること」とあります。

今年度のクラブ予算は、先の例会においてご説明させて頂き、皆様方よりご承認頂きましたとおり、予算規模といたしまして、収入面では会員の増加を考慮に微増を見込み、支出面では今年度は地区員の関連費及び親クラブの周年事業関係費、登録料等を見込み策定しました。

今更申し上げることもありませんが、事業費会計の収入源は我々のクラブではドネーションであり、すでに決定している事業の実施には不可欠のもので、メンバー各位には積極的、自発的な寄付をお願いいたします。

以上、今年度予算の策定に当たつての説明であります。どうかこの一年間、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

広報・情報・会報・編集委員会

委員長 L 中村喜隆

広報「七本槍」一〇〇号は、木之本ライオンズクラブ創立35周年の記念誌となりました。

今回、一〇一号の発行に際して、過去歴代の「七本槍」に目を通してみますと、その年々のアクティビティーや例会内容、そして、その年に入会された方々、又、今は亡き懐かしい方々のお言葉などが記録されており、入会5年目の私ではありますが、木之本ライオンズクラブのチャーターナイト以来の歴史がよくわかります。

過去7年以前の「七本槍」には、レオクラブの会長の挨拶や活動も記録されておりました。当時、レオクラブにも「湖琴」という広報誌がありまして、その題字を、作家の水上勉氏に書いていただいたことを思

い出しました。ちなみに「七本槍」は、元滋賀県知事でありました故谷口久次郎氏です。

このように、「七本槍」は、木之本ライオンズクラブの貴重な実践記録でもあるのです。この歴史ある本誌を、メンバー皆様のご協力のもと、ご意見あるいは提案等、お聞きしながら、我々クラブの有意義な情報誌および活動の記録として後世に残し守つていきたいと思ひます。

教育委員会

委員長 L 前田敏一

今年度、教育委員会の委員長をおおせつかりました。一年間よろしくお願ひ致します。

今年度教育委員会の事業は、第六回伊香郡スポーツ少年団大会を主催し、開催する。

伊香郡内小中学校障害児学級一日バス旅行

十月十三日

「八つ橋庵とししゅうやかた」

「東映太秦映画村」

江北図書館へ図書のご贈呈

伊香郡美術展覧会の後援

伊香郡柔剣道大会の後援

以上の予定です。今年度はオリンピックの年であります。スポーツ少年団交流大会は伊香郡内での団体やオリンピックの雰囲気

で開催致したいと思つております。御協力宜しくお願ひ致します。

保健委員会

委員長 L 谷口武男

本年度も例年通りの活動となります。

○献血協力

○糖尿病キャンペーン・成分献血例会

○会員健康診断

“健康第一・当たり前に感謝して

各々で健康管理を”

又、献血協力は当番制ですので、各自の責任においてご協力を宜しくお願ひします。

社会福祉委員会

委員長 L 近藤齊伸

「七本槍」

賤ヶ岳合戦の原因に信長の後継者を誰にするのが表向き政治課題としてあつた。表向きというのはその裏があり、本筋は織田一族にかかわる所領の分配をめぐる織田家の宿老である柴田勝家・丹羽長秀・池田恒興を差し置き秀吉が主導権を掌握しようとしたところにある。天正十年六月清須会議で後継者に勝家は三男信孝を推し、秀吉は名分を立てて長男の子秀信を推したが、秀吉の思惑は型どおりの弔い合戦の名目だけのものではあつたらう。

興福寺に残る「多聞院日記」には「天下之様、柴田、羽柴、丹羽、池田、堀、以上五人して分取り様にその沙汰あり。信長の子供は何も詮に立たずと云々……」とある。織田一族は埒外におかれていたのである。

信長の葬儀は京都大徳寺で三法師秀信を擁して洛中が驚く盛大なものとして行われるといふ秀吉独特の政治的演出があり、勝家との間に益々緊張関係が高まったのである。

賤ヶ岳合戦の戦端は、佐久間盛政が秀吉側の中川清秀をおそつた時から始まる。信孝が挙兵したという報で岐阜城へ向かった留守の間の出来事である。岐阜へ行つたはずの秀吉が神速の勢いで木之本に戻つた例の有名な「大返し」である。秀吉は大返しを二度行つている。天正十年、主君信長の敵明智光秀をわずか十一日間でたおした秀吉の迅速果敢な「中国大返し」である。主導権を握るには最も大きな戦功であつたらう。二度目の大返しは驚異に値する。如何に情報伝達と人心掌握の戦略に優れた才能を秀吉が発揮したかが伺える。

大音の想古亭の庭園に「七本槍」の武将の名碑が刻まれている。福島正則、脇坂安

則、加藤嘉明、加藤清正、平野長泰、片桐且元、糟谷数正の「七人の侍」である。事実は桜井佐吉、石河一光（討ち死）を入れて九人といわれている。合戦に戦功のあつた武将に石河を除き各々三〇〇〇石の知行が宛られたという。世にいう「七本槍」である。

群雄割拠する戦国の状況とはいえ謀報、策略の渦巻く中で敵か味方か、不安と疑心暗鬼の中での戦略として興味ある考え方があつた。池宮彰一郎の「本能寺」である。信長の天下布武の新しい考え方に既得権の打破と戦国大名の廃止構想があるが、これに端を発し、中国攻めの秀吉はある人物から画策され主君信長への反逆示唆の罠にはめられ、同時に光秀を不安な状況に追い込み本能寺の変が起つたとする考え方である。信長が後継者として権任日向守（光秀）しかいないと考え、羽柴筑前は使える男だが統領の器でないといふと側近にもらした事が重大事件に発展をしたのだという。もし信

長治政が続き光秀が後継者として立つていたら家康と秀吉の確執もなく「関ヶ原」の天下分け目の戦いもなかったのかも知れない。しかし現実はそのようではなかった。歴史とは皮肉なものである。

北国協往還が往時の様子から変わりつつある今、賤ヶ岳を中心とする北近江の歴史街道に新しい視点を当てながら、歴史から学ぶことが如何に大切かを痛感している。

環境保全委員会

委員長 L 吉川信弘

今年度委員長を務めることとなり、所信を述べさせて頂きます。

最近環境問題に対してテレビ、新聞などで耳にすることが大変多くなっています。それだけ皆さんの環境問題への関心も深いと思ひます。私も仕事上、野焼きの禁止、産業廃棄物は処理業者に委託し細心の注意をしております。

しかし、毎日発生する大量のゴミ、産廃物がどのように処理されているのか、これ

から先はどうなるのか、と思うととても心配です。

去る七月五日に委員長会議に出席させて頂き、大気汚染について講演を聞いて事の重大さを実感しました。

特にアイドリングによる大気に及ぼす影響がどれほど大きいのか、今地球温暖化が進んでいきます。空気が汚れています。美しい地球を「みんなで守る」という意識をもって21世紀に向けて次の世代を担う子どもたちのために努力していきたいと思ひます。今年も清掃奉仕、植樹、アイドリングストップ運動を実施したいと思ひますので、各Lの御協力をよろしくお願ひ致します。



役員紹介

(二〇〇〇・七～二〇〇一・六)

会	長	L 田 辺 茂 樹
前	会 長	L 中 谷 寿 雄
第 一	副 会 長	L 三 国 宏
第 二	副 会 長	L 藤 田 每 馬
第 三	副 会 長	L 平 井 與 四 次
幹	事	L 柴 田 真
会	計	L 橋 本 圭 祐
ラ	イ	L 速 水 五 郎
イ	ン	L 西 村 豊 和
ン	ス	L 浅 井 悦 郎
タ	ー	L 近 藤 齊 伸
マ	ー	L 安 井 一 清
一	年	L 藤 田 市 治
年	理	L 平 井 清
理	事	L 竹 中 一 雄
二	年	L 藤 田 暢 彦
年	理	L 藤 坂 宇 市
理	事	L 藤 坂 宇 市
会	計	L 千 田 定 剛
計	監	L 千 田 定 剛
査		